当院恒例の院内学術運動交流集会

患者さんの最善にアプローチ！

互いの向上心や成果を披露

8月17日に、「2022年度前期院内学術運動交流集会」を開催しました。今回は、医師や看護師など7名の職員から、日々業務で実践している医療技術向上へのとりくみや、各部署での業務改善の工夫について発表がありました。

医療事務課からは、昨年より始まったコロナワクチンの接種業務について、外来棟という限られた会場で、患者さん同士が密にならずに、受付から接種までスムーズに流れるよう工夫したことや、職員間での情報共有のとりくみについて発表がありました。

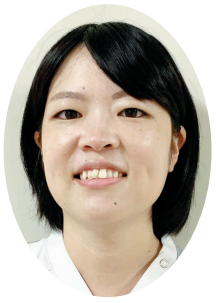
看護部からは、入院中の聾患者さんとのコミュニケーションについて発表がありました。コミュニケーション手段の一つであるカードを患者さんが使いやすいよう改善し、看護師が手話を学ぶことで、だんだんと意思疎通がとりやすくなり、患者さんの笑顔や言葉が増え、看護のやりがいを感じられたとの報告がありました。

同じく看護部から、高度嚥下障害患者さんの↘

参加した職員と共有することができました

質問に答える土居看護師

この人



医療福祉相談室の太田優子さんを紹介します。患者さんやご家族の相談をよく聞き、熱い思いを持って関わることのできるソーシャルワーカーです。そして、自分の考えや思いを、はきはきと明確に、しかし一方的ではなく、相手に伝えることのできる力を持っていると思います。私の隣の席で電話や話をしている様子に、いつも感心させられています。

芯のしっかりした柔軟な対応で

いつも頼れるソーシャルワーカー

医療福祉相談室 医療ソーシャルワーカー 太田（おおた） 優子（ゆうこ）さん

そんな太田さんは、広島県出身で、広島の病院での経験を経て、縁あってこちらに就職されました。広島では、被爆者の方の証言活動等に参加するなど、平和活動に取り組んでいました。もちろん、広島東洋カープファンですが、岡山ではカープ戦の放映が少なくさみしいそうです。パン好きでもある太田さんは、自分で好みのパンを作ることもあるそうです。休日には、ご主人と一緒にパン屋巡りをしたり、植物の世話をしたりと、仲むつまじい様子です。出身地を離れて、家庭を持ち、仕事を続けることに困難もあるかもしれませんが、太田さんの活躍に期待しています。

（医療福祉相談室　八谷尋子）

シリーズ 拝啓、組合員さんへ ～みずきょうの各部署から～

栄養科

今日も食べる幸せお届けしたい

栄養科　これからも喜ばれる食事づくりを

「完全側臥位（かんぜんそくがい）（横向きに寝ころんだ状態）」で行う食事方法の紹介がありました。高度嚥下障害では、チューブで栄養を胃に流し込む胃瘻への移行や、人工栄養での食事を余儀なくされる場合が多いですが、「口から食べたい」という患者さんの想いを大切にし、今後も安全に配慮した上で、経口摂取にチャレンジしていきたいと目標を挙げていました。

どの報告も「患者さんのために」という職員の姿勢が感じられ、医療従事者として初心にかえることのできる報告会でした。

（栄養科　三田幸枝）

栄養科は病院の5階にあります。晴れた日はとても眺望がよく、元旦はご来光を眺めて朝食の配膳が始まります。

〝患者さんに喜ばれる安心安全の食事作り〟を目標とし、管理栄養士と調理師と共同で、患者さんの希望に添えるように、食事の形態や量、食器、嗜好などに対応しています。ご希望があればご相談ください。

また、日本の伝統食や行事食（おせち、節分、ひな祭りのお寿司など）を献立に取り入れ、その時期の食材を利用し、季節をいち早くお届けする工夫をしています。また、毎月25日はニコニコデーと称して、人気のちらし寿司を提供しています。さらに、甚大災害に備え、備蓄食品の管理も行っています。

コロナで、患者会の活動や調理実習の班会など、組合員さんとお会いする機会がなくなりましたが、また一緒に活動できたらと思います。

（栄養科　高田智恵美）

水島協同病院は差額ベッド料はいただいておりません